同窓会報

NO.55
2012.3

発行 ― 〒992-0039 山形県米沢市門東町１丁目１番72号　九里学園同窓会　事務局　TEL 0238－22－0091　FAX 0238－22－0092　http://all-kunori.net/

震災ボランティア　２年女子　　石巻にて　７月２日

龍のごとく天高く

同窓会長　佐藤　せつ（S二十三年卒）

会員の皆様には、益々ご壮健にてお過ごしの事とお慶び申し上げます。

昨年の三月、東日本は未曽有の大震災による甚大なる被害を被り、多くの尊い命が失われたことに深い哀悼の意を表しますとともに、心からお見舞い申し上げます。

幸い、当県内の学校・施設の児童、生徒に大きな被害は無かったのですが、いざ直面した時、命を預かる身として適切な判断・行動が出来るか、責任の重大さを改めてしみじみと考えさせられた一年でした。

さて、創立百十周年を迎えた母校の学園祭も、会員の皆さんの絶大なるご協力により盛大に終了できました。遠い青森県から参加されての消しゴムはんこの手ほどき等もあり、楽しい集いになりました。ほんとうに嬉しく、これぞ同窓会の誇りと思いました。

今後の同窓会の活動について皆様と共に学園のためにどうあるべきかを再検討する時期であると思います。また、新しく発足した部活動後援会にも、どうぞ皆様のお力をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

最後になりますが、今年は干支である「龍」のごとく、学問にスポーツに天高く昇るように、母校の益々の発展と皆様のご活躍を心からご祈念申し上げます。

ハマってしまいます　消しゴムはんこ
ブログ、本でジワッと広まる

田　辺　香　純（旧姓　情野　Ｈ８年卒・青森在住）

「消しゴムはんこ」を始めたのは、六年前に本屋さんで何気なく手にした本に出会ったことからでした。

消しゴムとカッターだけで手軽に始められることと、三十分もあれば出来上がることが、私にはすごく合っていたのだと思います。

消しゴムに転写した図案をデザインカッターで切り込みを入れながら彫り上げていきます。彫りあがったはんこにインクをつけて最初に捺す瞬間はドキドキワクワク。捺したものを見たときは思わずにやにやしてしまいます。

自分の描いた絵がはんこになる！世界でただ一つのオリジナルはんこが出来上がります。とにかく夢中で彫っては誰かに見てもらいたいと、ブログにアップするようになりました。

その後、友人の紹介で米沢市内の雑貨屋さんで委託販売をしていただいたり、県内外のイベントに参加して「消しゴムはんこ教室」の講師などの活動をしております。また二〇一〇年に共著で書籍を出版、次いで翌年は単独で出版いたしました。趣味で始めたことでしたが、自分の本ができたことはとても嬉しく、関係者の方々に感謝しております。

年齢を問わず楽しめます。

皆さんも「消しゴムはんこ」をぜひぜひ作ってみませんか。

学園近況

生きた『譲』の精神

校長　九　里　廣　志

あの震災の時、私は校長室（旧宿直室）で仕事をしていました。すぐに収まるだろうと思っていた揺れがどんどん大きくなり、これは大変だぞと思うと同時に、「果たしてこの木造校舎は、この大地震に耐えられるのだろうか」との不安が頭をよぎりました。『生徒たちの身の安全』を守れなくては、学校でいくら知識や体力などを身につけさせてもどうしようもありません。地震が収まるまでの間が、途方もなく長い時間に感じられました。幸いに、校舎は持ちこたえてくれて、本校の生徒にけが人が出なかったことは、不幸中の幸いでした。「この木造校舎は地震に強い構造になっているから大丈夫だ」と言っていた学園長の言葉の通りでした。

その後に入ってきた情報は悲惨を極めました。地震に追い討ちをかけた大津波は多くの家屋を破壊し、多くの命を奪ってゆきました。鉄筋の建物でも安全ではなく、幾つかの学校も津波にさらわれ、児童生徒たちの多くが犠牲になったりもしました。

市営体育館に避難してこられた被災者たちへのお手伝いを始め、保護者の方々も一緒になっての被災地へのボランティアなど、去年一年多くの生徒たちが被災地の復興のために頑張ってくれました。これも先輩たちから脈々と受け継いできた「譲」の精神のおかげだと実感します。

幸せな時代が再び来ることを祈るだけではなく、実現させる力を持った生徒を育てたいと思っています。

記念音楽会 ―― 9月13日

ピアノ＆ヴァイオリンコンサート

創立百十周年記念音楽会は、ピアニスト加羽沢美濃さんと十二人のヴァイオリニストの二部構成で華やかに始まりました。

主宰している高嶋ちさ子さんのヴァイオリンに込める想いをこの人なら具現出来ると選ばれた十二人は、みんな個性的で、美人でした。女性が紡ぐ弦の優美さに学園の男子生徒も魅了されたのではないでしょうか。

懐かしい映画音楽と加羽沢さんの軽妙なトークであっという間の二時間でした。

（S五十二年卒　高橋　有子　記）

お久しぶりです 皆様

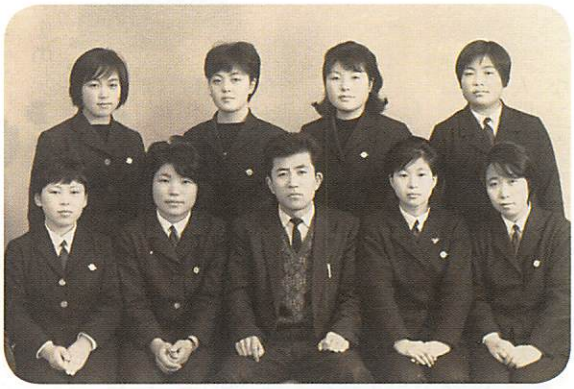
亀田 昇明 先生

卒業生に 万物創生の母を観る

私が九里学園で最もエネルギーを発散したのは、昭和四十年代頃か。あれから早四十年、苦難の人生を歩み、今は一山伏寺院の住職として、日々人生相談や法務の手伝いに動きまわっている。時折同窓生の方も来山され、「あら、亀田先生。ちっともお変わりなく…。」と上手にほめられる。既に後期高齢者なのに。

この頃、女性、特に同窓生の方々に共通する自他を敬い、人との和楽によって一家を上手に統率しておられる姿に、いわゆる〝偉大なる母〟を観る思いがする。

よく一家の主婦を〝おかみさん〟とか、関西では〝大黒様〟とも呼ばれるが、語源は〝お神様〟らしい。作物を生み出す〝田の神・水の神・山の神〟で、この神々の実家が出雲の国。ご神体が大黒様。米俵に乗った笑顔のお姿。いずれも作物など万物創生の偉大な母の姿が、明るく強く象徴されている。今、日本人に失われつつある人間本来の心だが、幸い来山される同窓生の方々には色濃く残っているのが感じられる。〝礼譲〟の具現化か。どうぞ自信と誇りを堅持して〝心の幸せ〟を追求してほしい。



生徒会役員と

総会報告

6月25日

質素に 母校との繋がりを深める

同窓会実行委員会の第一回目の打ち合わせが行われたのは、日本中が震撼した東日本大震災の直後でした。毎年、ホテルで行われている同窓会の集いを、楽しみにしていらっしゃる同窓生の皆さんが沢山いらっしゃることは承知しておりましたが、質素にという気運に添い、今回に限り、母校の教育センターホールでの開催となりました。

前例がないため手探りの開催になりましたが、アトラクションでは学校紹介、部活動紹介のDVD上映、ダンス部によるOGとの共演。バレー部、サッカー部の実演と先生方、在校生の皆さんにご協力いただき、私たち卒業生と在校生の繋がりを感じる母校開催ならではの会になったのではないかと思っています。

実行委員長
鈴木 里佳（S60年卒）

クラブしょうかい

バレーボールが純粋に好きな八名の部員達は、今夢に向かって元気に活動しています。夢は、以前は県でも四位に入る常勝チームだった九里バレーボール部を復活させることです。現在もこの部で汗と涙を流した卒業生の方々が、練習に駆けつけてはアドバイスして下さいます。先輩の応援が大きな支えになっています。さらに、『ころを一つにする』を合い言葉にチーム作りに励み、仲間、自分、チームを愛することを大事にしています。みんなの力を結集して、夢の実現に向かって進みます。

（監督 吉田 貴美子 記）

職場訪問

山形県警　鶴岡署　勤務

渡部　誠さん（H17年卒）

他者を思う温かい心を持つこと

私が、高校時代から現在に至るまで、心の支えとしているのは、本田米子先生から頂いた「皆で強くなろう」「焦らず、慌てず、諦めず」という言葉です。当時の私は「俺さえ良ければ関係ねえべ。」などと考え、先生の言葉に耳を貸さず、非常に傲慢・無鉄砲で、いわゆる〝利かぬ気〟で臨んでいました。

三年の夏、リレーチームは東北大会まで勝ち進んだものの、私の脚は抱えていた肉離れが悪化し、決勝メンバーから外されました。チームのインターハイ出場は決まりましたが、大事な局面から外されたという怒りと悔しさで涙が止まりませんでした。大会後に、本田先生から同じ言葉をかけられ、それまでの自分がとても恥ずかしく、これも自業自得と痛感させられました。その反省が、インターハイの大舞台で全力を出し切る原動力となったのです。

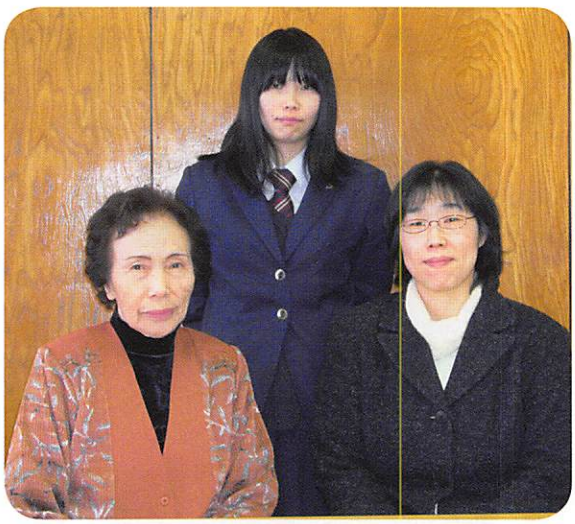
警察を頼って通報して下さった方や相談に訪れた方を前に、警官が対応を焦ればその対応を誤り、慌てた様子を見せれば相手の方に不安を与えてしまいます。

全ての人に当てはまると思いますが、何ものを前にしても諦めない強い精神力、組織力の発揮とチームワークの維持・向上、そして欠かせないのは、他者を思う温かい心を持つことです。

私が高校時代に学んだこれらのことは、今も私を強く支えるバックボーンであり、警察官としてだけでなく、一人の人間として生きる上での大きな財産になっています。

****

親子三代九里です



「おばあちゃんの舞姿の写真大好き」という孫。その孫とお母さんは吹奏楽という愉しみを共有。趣味が結んだ縁なのでしょうか。三人の学園時代をそれぞれ語っていただきました。

祖母の智さんは、九里学園の歴史で戦後の一時だけ存在した女子中学校の卒業です。終戦まもなくの入学で、大変な時代でした。普通の授業は午前中だけで、午後は、吾妻町にある学校の畑で芋掘り、八幡原で木を運ぶ作業の日々でした。そんな学校生活でも智さんは、体育が大好きでバレー部に所属し、合宿も高校の先輩と一緒で楽しかったそうです。現在日舞を趣味としておられます。

お母さんの万里子さんの部活は、吹奏楽部でトランペットでした。就職と同時に米沢吹奏楽愛好会に入り、そこで同じ楽器の先輩であるご主人と出会い結婚されました。高校時代の思い出は、校内の合唱コンクールで指揮をして優勝したことだそうです。

娘の茜さんは、現在三年生。小さい頃から両親の姿を見て育ち、部活はやはり吹奏楽部でトランペットです。介護福祉施設に就職が決まったそうです。

街でトランペット三重奏が聞こえたらそこが新藤家ですね。きっと。

（S四十二年卒　大久保　洋子　記）

- 新藤　智（とも）さん（旧姓　伊藤　S25年卒）
- 新藤　万里子さん（旧姓　長沢　S63年卒）
- 新藤　茜さん（３年生）

練習は松川の橋の下で

私の高校時代

稲　村　みよ子（旧姓　髙橋　S43年卒）

フェンシング　S42

私が一年生の時、長瀬先生の下でフェンシング愛好会が誕生した。愛好会なので真面目に練習に来る人も少なく、練習場所も正面玄関、松川の橋の下、廊下、屋上、小体育館と空いている場所を探しての練習だった。それに三年生は生徒会の役員初め、忙しい人達ばかりだった。でも、先生のフェンシングにかける情熱は物凄いものだった。負けるのが当たり前の惨めな試合から、勝つことだけを考えるようになっていた。初めて県大会で優勝した時は、インターハイ出場との二重の喜びで飛び上がって喜んだのを覚えている。

校長先生のお陰で、ユニホーム、メタルジャケット、剣などいろいろな物を買い揃えて頂いた。愛好会でインターハイに参加したのは、全国でも我校だけだったと思う。愛好会から部へ、生徒総会で満場一致で昇格した。

国体予選東北大会では、インターハイ優勝選手と一本の差で負け六位入賞、二年後、後輩がインターハイ三位入賞。本を見ながらの練習から三年。情熱と努力とみんなの同じ思いと絆で強いチームになった。

その当時の思いと絆を受け継いで、後輩の皆さんが長い間頑張って伝統を築いてくれたことに、心より感謝している。

フェンシング部

OG会

創部した長瀬先生のお墓参りをしました

九里学園百十周年記念に、部活動のまとめをするということがきっかけになり、フェンシングのOG会をすることになりました。

後輩のお膳立てで学園祭に行き、教頭先生より校舎を案内して頂きました。

卒業して四十五年、青春の思い出の詰まった旧校舎は当時のままでした。

そしてフェンシング部の顧問だった長瀬先生のお墓参りをしました。

突然のOG会だったにもかかわらず忙しい所を駆け付けて下さって、笹原先生、本当にありがとうございました。

久しぶりに元気な皆さんに会えてとても楽しかったです。短い一時でしたが昔話に花が咲きました。（稲村　記）

九里祭参加 同窓生作品展

同窓生の作品展では、飯豊支部の皆さんの作品を初め十三名の方から出展していただきました。模擬店参加では、とみちゃん喫茶で、美味しい「パフェ」販売をいたしました。田辺香純さんを講師に「消しゴムはんこ」の講習会をおこないました。小さな消しゴムはんこの作り出す模様のかわいらしいこともあって、大盛況でした。

「ごはんのお供」コーナーでは置賜の食材で日常のお漬物や煮豆等、レシピと共に何点か試食をさせていただきました。美味しい物をいただくと、顔もほころび、幸せな気持ちで作り方などに話がはずみました。

（S四十年卒　寒河江　敏子　記）

時々登場します シンボルキャラクター

三年　西山　佳歩さん　作

加藤こと先生 御逝去（満91歳）

こと先生は、去る一月一日、九十一歳で逝去されました。

先生は、昭和十四～十九年と、昭和二十七～四十九年の二期間計二十七年間、家庭科の被服（和裁）を教えてこられました。九里裁縫女学校の師範科の卒業で、創立者の九里とみ先生の教えを受けられ、その技術を後輩に伝えられました。

心からご冥福をお祈りいたします。

長岡直浩先生 御逝去（満六十六歳）

去る平成二十三年七月十九日、美術科・現役講師であられた長岡直浩先生が逝去されました。

先生は昭和五十七年から九里学園に勤務されました。大学では油絵を専攻されて、芸術を通して、美術部員や美術選択者を指導され、多くの生徒が先生の温かい人柄で感性を開花させ巣立っていきました。

心からご冥福をお祈りいたします。

どうなりました？部活動後援会

Q　部活動後援会の特別会員の現状を教えてください。

A　同窓会の皆様方に一言お礼申し上げます。学園の創立百十周年に際し、部活動後援会より特別会員の募集をさせていただきましたところ、たくさんの方々よりご協力をいただきました。現在は、陸上部、卓球部、スキー部などが全国大会で活躍しております。また野球部や吹奏楽部をはじめとして多くの部活動が全国大会出場を目指して頑張っています。（詳細は本校のＨＰをご覧ください）二十四年度以降も継続して会員の募集をしておりますので、後輩の活動を支えていただきたいと思います。

（部活動後援会会長　内藤　文徳）

● 同窓生の集い（総会）は、**六月三十日(土)**です。その運営当番は卒業年が二と三のつく学年昭和三十二、三十三、四十二、四十三、五十二、五十三、六十二、六十三、平成二、三、十二、十三、二十二、二十三年です。

詳しくは別紙を参照の上、申し込みいただきますようご案内いたします。また、左記アドレスからもお申し込みいただけますのでご利用ください。

ALL くのり ねっと

アドレス http://all-kunori.net/

投稿はメール、封書、はがきでお送り下さい。

(1)メールあて先
dousou@tw.kunori-h.ed.jp

(2)封書、はがき（表紙の住所をご覧下さい）

編集後記

東日本大震災は、経験したことのない新しい問題を引きおこし、日本全体に暗い影を落としています。しかし、事実から目をそむけることなく向き合い、辛さの中から掴んだ絆で力強く一歩ずつ歩んでいきましょう。